

◇子どもの実態

- 明るく素直で元気な子どもたちであるが、一人一人の子どもが様々な課題を抱えている。(人間関係、家庭、学力、発達障害など)
- あいさつや相手を思いやる言葉づかいなどは少しずつ良くなっているがまだまだできていない子どももいる。
- 家庭学習の時間が短く、テレビやゲームの時間が長い。就寝時間、起床時間が遅いなど生活習慣の課題が大きく、登校時間が遅い児童や欠席・遅刻を繰り返す特定少数の児童がいる。
- 保護者や地域は協力的である。
- 児童数約320人
通常学級12学級 特別支援学級1学級(知的)

◇めざす教師像

- 教職員としての使命感・専門性を持ち研究と実践に努力する教職員
- 心身ともに健康で温かさや厳しさのバランスのとれた教育愛みなぎる教職員
- 教育公務員・教育者にふさわしい服装・言動をとる教職員

- ① お互いを思いやり、明るく元気な職場で、心をつなげて、よりよい仕事をしよう。
 - ② 「時を守り、場を清め、礼をつくす」
 - ③ 一人で抱え込まない。教師も「ともに育ち」・・・
- 「チーム則松」の信頼と結束(安全で安心な職場づくり)

○学校教育目標達成のための具体的な方策(1)

- (1) 教職員相互の共通理解と協働体制のもとでの学校の教育力を高める
「学級崩壊」を絶対に起こさせない全校での協働体制
- (2) 自己実現を目指す豊かな生徒指導の推進
 - ① 共感的な児童理解を基盤に据えた学年・学級経営の充実・・・「学年担任」「近接学年チーム」の一層の推進
 - ② 生徒指導体制を生かした行動連携と、落ち着いた学校生活の生み出し・・・「教師同士がなんでも相談し合える職員室に」・・・「チーム則松」の信頼と結束
※「ん？」と感じる教師の直感を大切にしよう。
※まず出欠の確実な把握、そして報・連・相・結果の記録、保護者へは常に先手で
※危機管理の“さ・し・す・せ・そ”を大切に(保護者へは、連絡帳より電話、電話より家庭訪問)
※「指導する先生」と「見過ごす先生」がないようにしよう。
- (3) 豊かな体験を通し、自己の生き方についての考えを深める道徳教育の充実

◇学校教育目標とめざす子ども像



心豊かで 自ら学び たくましく生きる子どもの育成

<やさしく> <かしこく> <たくましく>

- 心豊かで協調性のある子ども
- 自ら学び、自ら考える子ども
- 心身ともに健康で、強い意志と実践力のある子ども

目指す子どもの重点(育てる学校文化)

- <心豊かで協調性のある子ども>
 - ・ 自他の命を大切にする子ども
 - ・ 規範意識を高く持ち、善悪を正しく判断できる子ども
 - ・ 礼儀正しい子どもくあいさつ・言葉づかい
- <自ら学び、自ら考える子ども>
 - ・ 自ら学び、自ら考える子ども
 - ・ よく聞き、進んで表現する子ども
 - ・ 学びを生活に生かす子ども
- <心身ともに健康で、強い意志と実践力のある子ども>
 - ・ 進んで働く子ども
 - ・ 進んで体力づくりに取り組む子ども
 - ・ 健康で安全に生活する子ども

<重点目標>

- ① すべての教職員の共通理解と協働体制のもと学校の教育力を高める
「チームとしての一層のまとまりを」・・・若手の育成 一人一人のよさの発揮
- ② いじめ防止教育の推進 SDGs10
北九州子どもつながりプログラムの組織的、効果的な活用(人間関係づくり、学級づくり)
心の相談(毎学期の実施) 道徳・特別活動の充実による心の教育。
- ③ 特別支援教育の充実 SDGs10
障害のある児童の一人一人の教育的ニーズをとらえ、教育環境の充実及び支援体制の強化。
- ④ 「わかる授業」づくりのための授業改善 SDGs4
すべての教科等の学習でICTを活用を通して言語活動・話し合い活動を充実させ、新しい教育課程の確実で効果的な推進を図る。(話し合い活動、表現する活動)
基礎的・基本的な知識や技能の習熟を図るとともに、それを活用した思考力・判断力・表現力等を高める授業づくりに取り組む。(めあて、まとめ、振り返り)
- ⑤ 読書活動の充実
学校図書館の充実と活用の促進、朝の読書活動や家庭での読書[うち読]のすすめ
- ⑥ あらゆる教育活動を通して、人権意識の高揚と人権感覚の育成に取り組む。 SDGs5.16
確かな人権意識、人権感覚による温かい指導、スクールカウンセラー等の活用など教育相談体制の充実
- ⑦ 体力向上の推進(一校一取組やパワーアッププログラム) SDGs3
- ⑧ 外国語活動の充実(ALT、ICTの活用)北九州市型英語教育
- ⑨ 健康・安全な生活についての指導を進め、学校としての対策を見直して、児童の安全確保を図る。
- ⑩ 環境教育の充実 SDGs6.13.14.15
- ⑪ 学校改善に生きるスクールプラン及び学校評価の実施
- ⑫ ICTの計画的な活用(タブレット端末等) デジタル教科書活用事業(英語)

“SDGs(持続可能な開発目標)の視点”

◇めざす学校像

- (1) 子どもが主役となる明るく楽しい学校
・・・特別支援教育の充実
- (2) 子どもが価値(ねうち)を感じ取る学校
・・・規律ある学校、特別活動の充実
- (3) 確かな信頼で結ばれた学校
・・・子ども相互、子どもと教師、教職員間、学校と保護者地域、小中の連携(則松中)
- (4) 保護者や地域に開かれた学校(コミュニティスクール)
・・・安全で美しい学校→学校応援団 SDGs17
- (5) 研究・研修を通し教師集団が学び合う学校
・・・授業改善
「一時間、一時間の授業の中に、教育のすべてがある」(指導の重点より)という考えを基盤にすえ、「確かな信頼」で結ばれた「活力」ある学校

当たり前のことを当たり前に行える子どもを育てる。

○学校教育目標達成のための具体的な方策(2)

- (4) 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスのとれた学習指導の推進
 - ① 基本的な学習規律の確立・・・学びの基盤となる「根っこ」をはぐくむ
 - ② 基礎的・基本的な知識技能を習得させるとともにそれを活用して思考力・判断力・表現力を育てる「わかる」授業づくりに取り組む
 - ③ GIGA 端末を活用した指導方法の構築・改善に取り組む
- (5) あらゆる教育活動を通じた人権教育の推進
 - 配慮の必要な児童について、職員間で共通理解する機会を設定する。関係機関との連携
 - 個人情報の保護
- (6) 実践的な指導力を高める校内研修の推進
 - 算数科を中核とした主題研究の推進
 - 人間関係づくりや学級集団づくりの充実
 - 全員で支える若年研修・・・互いに学びあう教師集団、磨きあう教師集団として
 - 外国語等の充実・・・北九州市型英語教育の推進
- (7) 子どもの安全確保に対する対応策の強化
 - 地域と連携した安全指導
 - 緊急連絡メールシステムの運用と活用
 - 避難訓練等防災教育の充実
- (8) 保護者・地域・関係機関との連携積極的な情報提供
- (9) 潤いとやすらぎのある教育環境づくりの推進・・・「ごみひとつに心を配れる子どもに 黙って掃除することのよさを教えよう。
- (10) 体力向上の推進
 - 一校一取組・PUPの活用した授業の充実
- (11) 環境教育の推進
 - 総合的な学習における本市関係機関の積極的な活用

